

Monthly Report

第50回全日本大学ローイング選手権：女子が総合優勝、男子全クルーが入賞を達成！！



庄巻の3種目制覇、16年ぶりの総合優勝を遂げた女子チーム / 埼玉県戸田漕艇場にて

9月6日(水)から9月10日(日)にかけて、埼玉県戸田ボートコースで開催された「第50回全日本大学ローイング選手権」において、本学漕艇部の女子チームがクォドルプル種目で悲願の初優勝を成し遂げました。創部からの想いを部員たちが受け継ぎ21年の歴史をかけて達成してくれました。女子チームは、エイトとペア種目でも優勝と大健闘し、創部以来3回目の総合優勝となりました。また、男子チームも熱いレースをくり広げ、出場した全クルーが見事に入賞を果たしました。

現地には全国から多くの卒業生や、ご家族が応援に駆けつけてくださり、この感動を分かち合うことができました。

【女子】

総合優勝

クォドルプル	優勝
舵手つきフォア	3位
ダブルスカル	3位
ペア	優勝
エイト	優勝
シングルスカル	敗者復活

【男子】

エイト	5位
舵手つきフォア	7位
クォドルプル	3位
ダブルスカル	4位

＜目次＞

・第50回全日本大学ローイング：女子が総合優勝、男子全クルーが入賞を達成！！／漕艇部	1
・今季5人目Jリーガー誕生！！與那覇航和、F C岐阜(J3)へ加入内定！／男子サッカー部 ・JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子70kg級で井上七海が3位入賞／柔道部	2
・第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会へ初出場！／陸上競技部女子駅伝ブロック ・2023模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！	3
・宮城県警察学校卒業式 本学卒業生5名が晴れて警察官へ ・羽黒高校生を対象に出前授業を実施してきました。 ・大河原中学校2年生の職場体験学習 ・富谷市内小学校の金管バンド活動を支援してきました。	4
・富谷市内小学校の金管バンド活動を支援 第2弾 ・坂元小学校での「スポーツの楽しさを伝える研修会」－みのりプロジェクト推進事業－	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.65	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

快挙！仙台大学史上初！今季5人目Jリーガー誕生！！與那覇航和、F C岐阜(J3)へ加入内定！

男子サッカー部の與那覇航和（体育4年）が、FC岐阜（J3）への来季加入が内定しましたのでお知らせします。

また、男子サッカー部は13年連続でのJリーガー輩出となり、得能草生（J2水戸内定）、石尾陸登（J2仙台内定）、相馬丞（J2山形内定）、玉城大志（J2群馬内定）に続き、今季5人目のJリーグチーム内定選手の誕生となります。

【與那覇 航和（ヨナハ コウワ）プロフィール】

■ポジション：MF

■生年月日：2001年5月8日（22歳）

■身長/体重：171cm/66kg

■出身：沖縄県

■チーム歴：

小緑中学校-浦和レッズユース-仙台大学



【本人コメント】

FC岐阜でプロサッカー選手になれてとても嬉しいです。

これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに日々努力していきます。そして、FC岐阜の勝利に貢献できるよう一生懸命頑張ります。

JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子70kg級で井上七海が3位入賞／柔道部

JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が9月9日、10日に埼玉県武道館で開催されました。

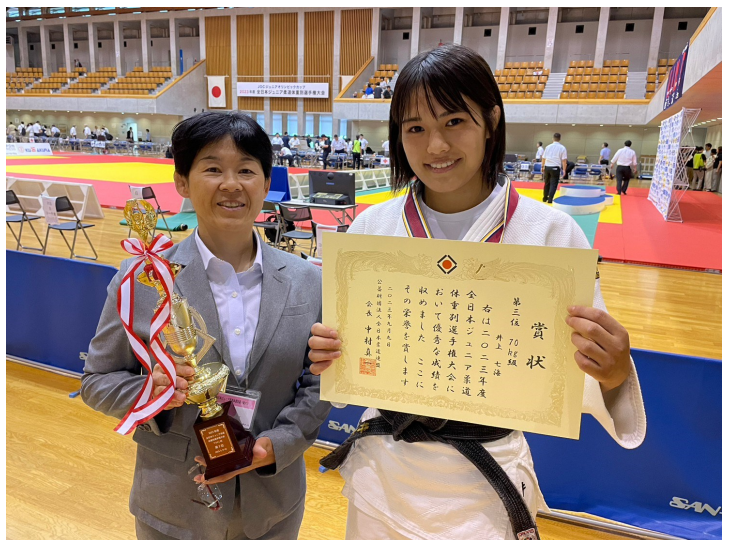
本大会は各地区の予選を勝ち上がった20歳以下、各階級（7階級）20～23名で杯を争う大会です。

本学からは女子6名が東北地区代表として出場しました。

その中で、70kg級に出場した井上七海（現代武道1年）は1、2回戦を勝利した後、3回戦で第一シードの選手に敗退しましたが、敗者復活戦を粘りのある試合内容で勝ち上がり、3位決定戦では一本勝ちを収めて見事に銅メダル獲得を果たしました。

高校生時代、インターハイベスト8が最高成績であった彼女が、本学で着実に実力をつけてきたことを形で示してくれました。

月末には全日本学生体重別選手権大会（男女7階級個人戦）が日本武道館で開催されます。今回の結果は、その準備において部員全体に刺激となるニュースとなりました。＜柔道部＞



第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会へ初出場！／陸上競技部女子駅伝ブロック

9月24日（日）に名取サイクルスポーツセンターで開催される「第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 東北地区代表選考会」に、陸上競技部女子駅伝ブロックがチームとして初めて出場しました。

大会詳細

正式名：第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
東北地区代表選考会

日時：令和5年9月24日（日） 14：00スタート

場所：名取サイクルスポーツセンター

競技種目：駅伝方式 3区間・2チーム編成 1区（5km）、2区（5km）、3区（5km）

成績：1位 東北福祉大 1時間28分10秒

2位 仙台大 1時間34分02秒 ※1区で伊東舞莉彩（体育1年）が区間賞

3位 石巻専修大 1時間36分37秒



2023模擬授業研究会「せんだい実習」を開催！！



9月16日（土）、17日（日）に3回目となる模擬授業研究会「せんだい実習」を宮城教育大学、そして今年度より参加の尚絅学院大学とともに開催いたしました。この実習は、各大学の保健体育科教諭を目指す学生を対象に、授業研究を通して授業づくりに求められる実践的な力を育むことを目指して実施したものです。今年は本学の第四体育館とLC棟を会場にして、本学からは教職を目指す学生で構成する院生と学生約10名、現職教員6名（内5名は本学OB）が参加しました。

今年度の内容としましては、「ダンス」をテーマとした模擬授業を学生が実施し、模擬授業後には検討会を設け、授業の成果と課題について互いの学生・教職員と共に分析検討を行い、たいへん有意義な学びへの繋がりとなりました。

次回は11月を予定しており、今回の「学び」をさらに発展させ、有意義な授業になるよう学生達も新たな指導案作りに取り掛かっております。

この取り組みは、宮城県ならびに東北地区の体育科教育を担える教員の育成に向けて継続していくこととしています。

宮城県警察学校卒業式 本学卒業生5名が晴れて警察官へ

3月に本学を卒業した5名の方が、訓練を経て9月25日宮城県警察学校を晴れてご卒業されました。本学から岩渕准教授が出席され「在学中から真面目だった学生たちでしたが、さらに真面目に凛々しくなって、それぞれの初任地に向かって行きました。」とのご報告を受けました。

ご両親からも「警察に入ることができたのも仙台大学の先生方からご指導いただいたおかげです。」とのありがたいお言葉も頂戴しました。5名の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

羽黒高校生を対象に出前授業を実施してきました。

9月15日（金）、羽黒高校（鶴岡市）にて、男子サッカー部員の2、3年生約30名を対象とした出前授業を実施しました。当日は、体育学科スポーツトレーナー・コースの小田桂吾先生が「サッカーにおけるコンディショニングについて」をテーマに、コンディショニングに関する基本事項や実践方法など、時折ユーモアを交え、熱のこもった授業となりました。羽黒高校では、本格的にコンディショニング論を学ぶのは初めてということもあり、講義の中では、身を乗り出して聞き入る生徒もみられました。

羽黒高校に対する出前授業は、次回（10月6日（金））は体育学科スポーツトレーナー・コースの白坂 牧人先生の講義を予定しています。

大河原中学校2年生の職場体験学習

大河原中学校の2年生15名が、地元の特色ある施設の一つとして、本学を選択し「職場体験学習」に来てくれました。本学の特色として「スポーツ」に関する、施設見学や施設体験、スポーツを専門とする教員の仕事について紹介しました。参加の生徒は、大学のスポーツ施設や部活動に取り組む学生を真剣に見学し、緊張しながらも楽しそうに体験する姿も見受けられました。

体験学習終盤での講話では、南條教授自身の経験をもとにした職に繋がる話がなされ、「無限の可能性の中で、やりたいこと、好きなことを見つけ、その目標に向き合ってほしい。そこへの道はいいことばかりではないけれど、好きなことであればきっと乗り越えられる」と熱いエールが送られました。

また、最後には学長室を訪問し、初めての場所に緊張する様子がみられましたが、進路について現段階での希望や、状況について対話がなされました。

富谷市内小学校の金管バンド活動を支援してきました。

9月9日（土）、富谷市と本学との包括連携協定に基づき、小学校金管バンド活動に対する支援事業を実施しました。

当日は、学生生活課の伊野部剛史さんを講師とし、「東向陽台小学校」の生徒さん約20名を対象にストレッチや音出しを行った後、全体的演奏や演技の調和の向上を目的としたフォーメーション（隊形移動の拍・位置）の確認を行いました。また、音楽を効果的に表現する方法として、楽器のベル・つま先の向きなど、細かな部分まで熱心な指導が行われました。

残暑の中、生徒さん達は、汗だくになって真面目に練習に取り組み、練習後、「できなかったことができるようになり自信がついた」「繰り返しの練習で、やっとわかった」との声が寄せられました。また、顧問の先生方からは、「普段なかなかメンバーが揃わない中、効果的に行う方法が学べた」「（自身も含めて）不安だった部分が理解できた」「楽譜にフォーメーションを書き、自宅でも練習して欲しい」との意見がありました。

富谷市内小学校の金管バンド活動を支援 第2弾

第一回目のに引き続き、9月16日（土）、富谷市と本学との包括連携協定に基づき、小学校金管バンド活動に対する支援事業を実施しました。

当日は、学生生活課の伊野部剛史さんを講師とし、「あけの平小学校」の児童ら約20名を対象に県大会に向けた仕上げを行いました。全体的演奏や演技の調和の向上を目的とした、フォーメンション（隊形移動の拍・位置）の確認や視覚的效果を狙い演出されたフラッグ操作まで何度も繰り返し調整されました。音楽を効果的に表現する方法として、楽器のベル正面（Bell Front）に向けたまま移動する動きはフォーメンションのほとんどの部分で使用されるため、肩の入れ方や姿勢維持のイメージなど、細かな部分まで熱心な指導が行われました。

児童たちからは、練習後、「県大会では今日学んだことを活かしたい」「精一杯頑張りたい」との声が寄せられました。また、顧問の先生方からは、「専門的知識がなく不安だった部分を指導していただいた」「県大会では児童らと一緒に楽しみたい」との意見がありました。

また、残暑の中、数か月に渡り練習してきた成果が、9月23日（土）利府町のグランディ21で行われた、「第42回マーチングバンド・バトントワリング宮城県大会」で披露されました。

本支援事業では、次回（10月14日（土））は「富谷小学校」での活動を予定しています。（令和5年度中に8小学校で支援予定）

坂元小学校での「スポーツの楽しさを伝える研修会」－みのりプロジェクト推進事業－

本事業は、「仙台大学と山元町との連携協力に関する協定書」に基づき実施されています。運動が得意な子だけでなく、運動が苦手な子にもスポーツの楽しさを伝えることを目的としています。

9月8日（金）には、坂元小学校の児童を対象にベースボール型ゲームを実施しました。児童たちは学生との交流を通じて、運動の楽しさを実感することができました。この交流は、児童だけでなく、参加した学生たちにも大きな学びの機会となりました。学生たちは、児童とのコミュニケーションを通じて、指導の技術や子どもたちの感じる楽しさ、モチベーションの向上方法など、実際の現場での教育の重要性を深く理解することができました。

この事業を通じて、児童と学生双方がスポーツを通じた教育の価値を実感し、より良い教育環境の構築に向けての一步を踏み出すことができました。



「高校スポーツの安全を守る」 Vol.65

今年の春頃に「エコロジカルアプローチ」という本が出版され、スポーツ界では話題になったことは記憶に新しいです。数ある興味深い知見の中から、私が特に印象に残った言葉は、“コーチの役割は、学習する動作自体の指導ではなく、学習者が効率的にスキルを習得していける制約を設けること”という箇所です。そして、普段の指導の中で自然とエコロジカルアプローチを使っている場面もあるなと感じる場面があります。

ウェイトトレーニング種目でフォームを学習してもらう際、S&Cコーチがデモンストレーション（視覚情報）を示してフォームの解説（聴覚情報）を行うという流れがあります。デモンストレーションと解説でフォームを理解して実践できる生徒もいますが、それだけではなかなか難しいこともあります。そのような場合に対応する一つの方法として、エコロジカルアプローチが使えらると思っています。

例えば、リバースランジという種目を初めて行う際、図1のように前脚側の膝が前方に出てしまうエラーが起きることがあります。その場合、図2のように前方にベンチを置いた状態で、“前脚側の膝がベンチに当たらないように”と説明させてリバースランジを行わせませす。ベンチを用いたこのアプローチでは、“膝が前に出てしまう”というエラーは自然と解消されます。もちろん、体重が後脚に載ってしまうことや前後の脚のスタンスが広すぎ・狭すぎという他のエラーは出ることもあります。しかし、膝が前に出るというエラーを環境制約で解消することで、指摘やエラー動作改善の解説を無駄に繰り返す必要はなくなります。それが最大の利点で、無駄な指摘や解説を減らすことで指導者側の労力が減り、結果としてよりフォーム全体を俯瞰的に観て指導が出来るようになりますと感じます。

視覚情報や聴覚情報だけでなく、環境制約も含めて効率的で効果的なトレーニング環境を作っていけるよう今後も精進したいと思います。（担当：浅野）



図1. 膝が前に出るエラー動作



図2. ベンチを用いたエコロジカルアプローチ

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画